

## 第3回 日田もりビジョン推進検討委員会

日 時 令和5年12月20日(水) 午後3時

場 所 日田市役所 7階中会議室

### 1. 開 会

### 2. 大呂委員長あいさつ

### 3. 議 題

#### (1)日田もりビジョンの見直しの骨子(案)について

- ・ 施策体系の変更(案)について 資料1
- ・ 本文の見直しについて(現行ビジョンP1~P73) 資料2  
(資料1~2、説明略)

#### 【質疑・応答】

#### 大呂委員長

それぞれの立場からご意見、ご質問をいただきたい。

#### 委員

よくとりまとめができています。文言や全体的な見直しポイントを確認し、質問と提案をしたい。41 ページ「インフラ施設の巡視や補修」は一般人がわかるのか。限定できないからインフラとしているのか、わかりづらい。「人工林の適正管理」については、「近年主伐が増加している」と急にでてきて、上の言葉と連動してない。主伐が増加した理由を人工林資源の充実と国産材需要の高まりなどを枕詞として入れるとわかりやすいのではないかと。「ヒノキのエリートツリー」という言葉は聞いたことがない。確認してほしい。

43 ページは奥地化のことを書いているが、文の流れがおかしい。わかりづらい文章になっている。「今後は森林整備の奥地化により路網整備が比較的困難な奥地林の急傾斜地における間伐～森林施業も必要となり～」は、「森林施業も必要となることから」など文面的な流れを整理してほしい。「人材の育成が必要となるため架線集材の技術継承」などという意味合いか。

AI とドローンの中の点の違い「・」はこれでよいのか。

61 ページ立命館アジア太平洋大学や 55 ページなど建物の写真がでてくるが、「吸収量を見える化する」という表現が新たに追加されたが、建物の固定量はない。分かる範囲で建物については、CO<sub>2</sub>の固定量を括弧書きで記載してほしい。

57 ページのしいたけの生産者で、「新規栽培者」という言葉は一般的なのか。

アジア太平洋大学の関係は、HP の内容そのままかと思うが、「教育施設としては」を「日本初」の前にもってきて、「木造 3 層吹抜を持つ」は「木造 3 階吹抜構造で」などという表現に。ビジョンの見直しの概要版は作った方が良いのではないかと。1、2、3 項目で変わった点の説明があれば良いと思う。

## 事務局

インフラ施設、花粉の少ないヒノキという表現等は検討する。ヒアリング結果を反映したので盛り込みすぎた感じである。CO<sub>2</sub>の固定量の見える化は、J-クレジット制度を進めることを考えていく。公共施設の固定量については、市だけで把握するのは難しいので、県に教えていただき検討したい。概要版はつくるようにしている。HP でパブリックコメント等、対外的にも説明していきたい。

## 委員

前回は大径材の話があり、今回資料の 54 ページで課題が出ていた。大径材の利用促進や需要拡大が記載されている。利用の出口に加え、川中での日田市の課題となっているのかどうか。52 ページで大径材の加工施設の整備があるのか。

## 事務局

大径材の加工、供給体制は力を入れる分野だ。大分県とも協議しながら、日田市内の供給できる製材工場に大径材の加工施設整備を行う必要がある。当然のことという認識だったので記載していなかった。需要拡大と供給力はセットで考えるべきなので、表記については検討したい。

## 委員

40 ページの J-クレジットは、我々の認識では、そう周知されていない。森林経営者への周知を待つ必要がある。農林中金などが世話をするので、企業に支援してね。という感じ。まだ機が熟していないのではないかと。災害に強い森林づくりの箇所は、発展的に考えた方が良い。昭和の日田は雪害が多く、平成は風害が多かった。平成の終わりから現在は水害が多い。気候の変動で災害がかわっている。「緩衝林として」と書いているが緩衝林としての考えを発展的に書いてはどうか。風害は県境から被害が来ていた。県境は尾根が多い。市町村界も尾根が多いが、市町村境は林業のやり方にそう違いがない。県境は苗から変わる。県境のダメージが多い。緩衝林は県境につくったほうが良いのではないかと。九州は山火事が少ないが、防火林としての機能もある。

九州は関係ないが、熊は 4 度以下にならないと冬眠しない。熊の被害はないが、鹿猪など、動物生態系も緩衝帯があってもいいのではないかと。調べるなら、生態系のことも一緒に考えれば良いのではないかと。

## 事務局

J-クレジットは、42 ページにトピックで挙げている。九電との包括連携協定で、市内の事業体が先駆的にやっている。別の事業体でも、J-VER で先行していた。農林中金等の話も聞いたが山国の方の森林組合が先駆けてやっている。経営計画がたっている所については、属人であればやりやすいが、属地は難しいなど色々な課題がある。県有林のやり方を参考にしながら研究したい。

## 委員

J-クレジットは、ぜひ市有林で先駆けて取り組んで欲しい。66 ページは、担い手確保育成で、「失われつつある架線集材の技術の継承」の箇所は、私の感覚だが架線集材技術は失われている。架線集材は3班あるが、1組は5ヶ年で3か所程度の現場しかない。1つの組は、大きな機械を入れているがいらぬので売りたいとのこと。ずっと架線集材をしている班は車両系機械を買った。森林組合では作業班が皆無になっている。実際問題としてそのような状況だ。このような記載をするなら、架線集材している人はどのくらいいるのか等調べてから記述すべきではないか。

担い手対策は、ひた森の担い手づくり協議会の内容が入っているので、行政からの支援を期待したい。

## 事務局

架線集材については、毎回ご指摘いただいているが、ヒアリングを行って認識はしている。今後、架線集材ができるような現場を、譲与税を使った災害に強い森づくりで2~3カ所行い、技術の継承、現場見学を含めて事業量を確保していくことが重要だ。上乘せの補助などはヒアリングで意見があったので検討したい。

## 委員

47 ページの花粉症対策は、国の目標が記載されている。組合は伐採、植栽どちらも行う。現状、100~110ha/年伐採しているが、植栽する苗の確保が厳しい。苗木を確保した分だけ切っていくなどで対応する必要があるかもしれない。毎年、苗を確保できず、翌年に繰り越されてその分が残っていく。苗木の生産者と話をし、確保をしていかないといけない。

J-クレジットは、農林中金から市内事業体の話を聞いたが、全森連が大分にきたとき、現状で立てたらどうなるかを試算してもらったが、私たちの組織では立てるメリットがないと言われた。取り組む必要があるとは思いますが、J-クレジットに対応していこうという感じにはならない。

## 事務局

花粉症対策として、国の補正予算がついている。国は経営計画がないところで植付けを行ったところを対象にしていくということであり、植付けを行った後は経営計画に入れていくとい

うことで予算措置がされている。日田市は 8 割が経営計画に入っている。尾根急傾斜地は広葉樹林化で使っていく必要がある。低花粉の苗木は 9 種類あり、そのうち作りやすいのが 4 種類あると聞く。苗木の確保は県と協力しながら検討したい。J-クレジットは引き続き検討したい。

## 委員

架線集材の技術継承は、材価からして今まで通りの架線集材は難しいと思う。新しい林業機械を利用できれば、今まで出せなかった山から出せるようになる。新しい架線技術という記述の方が良いのではないか。

## 事務局

災害に強い森林づくりでは、タワーヤーダーで架線集材をやっている。現地見学する場を設けたい。架線集材は、災害が多い中、技術として残していかないといけない。委員もおっしゃったが、人材がいない中、取組のスタートが遅れたが、現状を把握したうえで、山づくりでの必要性を整理したい。タワーヤーダー、路網との組み合わせなど、行政としてどのような支援が必要かは検討していく。

参考資料としてヒアリング結果を配布している。2 ページ見てもらえると、苗木の内容を記載している。事業体によって状況が違っていると理解している。実態を深堀していきたい。

## 委員

私が林業に就いたばかりのときは、伐採搬出班は 8~10 人が単位だった。仕事は集運材がメインだった。昔はもっと多く 15 人単位でいた。条件の良いところは馬が運んでいた。日田で集運材がすたれたのは、県のサポートが大きい。市、県の理解があつて林道がたくさん入った。そのため集材だけで良くなり、搬出班は 5 人くらいになった。さらに高齢化で減っていき伐採班は 2~3 人になり、クローラーで搬出する形態になった。環境が良かったので集運材班、架線業者がいなくなるのは必然だった。

## 大呂委員長

経済的な意味では架線集材はなくなるが、残すべきだというのが事務局の考えなので、そのあたりは整理して記述してほしい。

## 委員

37 ページから、市有林の活用の記述で環境林への転換とあるが、市有林は広葉樹の植栽箇所がたくさんある。弊社として、市有林の事業で今やっている。普通の生産林と同じように下刈りを繰り返した後は、環境林においては特に手入れをしていないのではないか。環境林に転換する場合に、天然更新のように放っておくのか。そうすべきなのか、人工的に管理をした方がよいのか。市有林に限らず他の地域でもあると思う。2m 間隔で植えられた広葉樹林が手入れせずに目指すべき環境林になるのか。目指す環境林はどのようなものかわからないので具体的にお聞

きしたい。

#### 事務局

39 ページに判断基準として県のビジョンから引用している。レーザー計測のデータを活用しながら、その都度考えていきたい。日田市全体の8割がスギ、人工林のスギが多すぎる。県の方でも生産林に適さない人工林の20%を天然林化し、環境林へ誘導するという目標がある。個人の財産で誘導が難しい部分もある。譲与税を使いながらの造林補助等もあるので活用していきたい。市有林はその都度ご意見をいただきながらやっている。

大変難しい問題で、手探りの状態だ。再造林放棄地を調査する中で、針葉樹の伐採跡地はなかなか生えないので、母樹となるものを植えるなど、県からの指導に基づきやってきたが、山づくりが全てできているというわけではない。天然林として、そこに生えていたものが森林化するのが理想だが、人工林から転換を図ることの見極め、手の入れ方が難しい。

#### 委員

広葉樹を植えたところは、植えたら終わりみたいなどころがある。それが天然林化すればよいのかもしれないが、どれが一番いいのか、私も勉強していくが、聞いてみたかった。

#### 事務局

市有林は約1,600haあるので、手が届いてないが、今後、間伐を強化していきたい。現在、市有林の巡視をしてもらっているので、必要な施業は行っていきたい。

#### 委員

長期計画なので、網羅的なのは理解しているが、あまりにもきれいにできすぎている感じがする。県や国の文言が入っていると思うが、日田の林業で10、50、100年後、何が大事なのか。育林・植林の分野で言えば、スギ・ヒノキだけで良いのか。所有者がいない荒廃した森林が多くあるなかで、環境林に移行する際に、地域住民はどうかかわっていくのか。大径材がたくさんあるので切らないといけませんが、製材所を中心に機械をいれていくという発想でよいのか。後継者の問題など。そういうことが計画の中で見えてくる、10年間で何を重点にやっているのが見える計画が良いのではないかと。仕方ないかもしれないが、そのように感じた。

#### 事務局

おっしゃる通りだと思う。関係者が多い中で、これだけの事業が絵にかいた餅にならないように頑張ってもらっている。36ページの伐って使って植えて育てるサイクルを守ることが重要で、今回重要なのは担い手対策と考えている。

#### 委員

建築・設計の担い手の文章も入れてもらっている。デザインの取組、60ページの取組例で、

福岡市のカフェの写真が載っている。日田市内で目につくものがあれば、掲載してほしい。取組の成果がでているのであれば、市内の写真を入れると、身近に感じることができる。

## 事務局

日田市内の取組事例は結構ある。掲載は、日田市の事業で、店舗の木質化を図る場合に支援するというもので、レアケースだったので福岡の事例を掲載した。市内で同様の取組もあるので、検討したい。

## 委員

地域材の活用で、72 ページに日田家具衆について掲載してもらっている。日田家具工業会では、若手グループ2世で日田家具衆をつくっている。日田家具の商品開発やブランディングを行っている。月に1回程度集まっている。スギの家具は乾燥が難しく歩留まりも悪いが、付加価値の高い製品づくりに取り組んでいる。ソファの木部にスギ・ヒノキのプライウッドを使うようになった。国産材が主流になっている。これまで外材が多かったが、コロナの際に中国産が高騰したので、国産にシフトしている。消費者の意識も変化し、スギなどの国産材を求める消費者も増えている。小売店での接客に問題があり、国産材の商品を消費者に勧めるにあたり、商品知識がないので安い外材製品を売ったりする。製造メーカーが営業や教育をしていかないといけないと思っている。

ふるさと納税で家具の返礼品での販売を考えている。現在、贅沢品と言うことで家具の出品はできないとなっている。ふるさと納税の返礼品に家具は出せない。基幹産業なのに出不せなのはおかしいので、行政に働きかけていきたい。

## 委員

日田林工は、担い手の育成確保が重点になっているので話をしたい。66 ページに日田林工の記述があるが、日田林工の生徒が少なくなっているため、全国募集を市長、議長に陳情にいった。担い手のもとになる生徒を確保することをやっている。今年は林業業界の協力もあり、進路が確実に決まっている。林業関係は、31 名中 21 名決まった。県外に出る生徒もいる。21 名のうち、日田市内在が 9 名専門分野で残ることになっている。増えている印象がある。県内を含め 10 名程度いる。進学する生徒もいるので、将来は増えるのではないかと。

「うまみだけ」は、大分県の商標なのか。大分県が持っているのであれば、日田林工でも使えるだろうか。

## 委員

「うまみだけ」は、大分県で商標登録をしている。生産者の登録から始めており、生産課程の管理が必要になるので、どのような使い方をするのか県と相談してほしい。

## (2)見直しに伴うヒアリング調査結果について 参考資料

(参考資料、説明略)

### 委員

ビジョンの資料に戻るが、41 ページに獣害対策の記載がある。ジビエの利活用について、日田市の施設をどう活用していくのか等の記載があれば。給食への提供の復活も期待したい。

57 ページの特用林産物について、うまみだけの箇所、製品をうまみだけにするだけが課題ではなく、省力化、平地化、機械化を県で進めているので、書き込んでいただきたい。森林を活用したいだけ栽培がどこにでもある栽培風景になっているので、機械化の様子などの写真にならないか。

### 事務局

ジビエの問題は検討を続けているが、ビジョンの位置づけは山を守ると趣旨で記述していた。再度、内部で検討したい。

### 委員

ジビエについては、有害鳥獣の部分で農業振興ビジョンの中に記載している。活用はそちらに入れている。こちらのビジョンに入れるかは検討したい。しいたけの省力化などは検討する。なお、しいたけのうまみだけの写真の掲載については県と検討していると聞いている。

## 4. 今後のスケジュールについて

### 事務局

若干の修正を加えて、パブリックコメントを令和6年1月17日(水)～令和6年2月15日(木)で行う。1月15日の広報ひたに掲載する。その意見をまとめて、第4回委員会(最終)は令和6年2月29日(木)14時を予定している。

## 5. その他

## 6. 閉会

### 事務局

これもちまして、本日の委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上